

第9回バトラー研究会のお知らせ

18世紀ブリテン思想史と社会的影響力の両面において重要な役割を果たしながらも、今日、忘れられた神学者、思想家と
言われているJoseph Butler (1692-1752) を、宗教・倫理・経済の各視点から再検討し、ふさわしい位置に復活させようとい
うのが本研究プロジェクトの中心的課題です。また、共同研究の成果として、論文集の日本語と英語双方による出版を計画して
おります。

日時 : 2020年12月20日(日) 14:00-16:30 (報告と討論は16:00まで。休憩後に事務的協議)

方法 : Zoom会議により開催 (ホスト:松本哲人・北海道教育大・研究分担者)

・会議名: 第9回バトラー研究会

・ミーティングURL、ミーティングID、パスワードは開催日当日(12月20日) 午前中メールにて配付
します。

研究会メンバー以外にも公開しますので、参加希望の方は以下の「参加申込書」に記入して

開催日前日(12月19日・土)までに送言してください。

<https://forms.gle/xA6nRLAnwaP4k79B7>

報告: 中島渉氏(明治大学) 「国教会牧師としてのジョナサン・スウィフトーその宗教的言説を眺める」

今回は、本年、*Jonathan Swift as a Conservative Trimmer: An Ideological Reading of His English Politico-Religious Writings, 1701-1726*. (Kinseido, 2020) を上梓された中島渉氏に、バトラーの年長の同時代人でアイルランド・ダブリン生まれのスウィフト(1667-1745)が、どのようにイングランドの宗教状況を見ていたのかについてご報告いただきます。『ガリバー旅行記』を中心に内外とも分厚い研究がある中で、今回のご報告はスウィフトの宗教的言説に焦点を絞った貴重なものと考えております。

それほど馴染みのない領域かと思しますので、事前に報告資料を参加希望者に送付する(ないし閲覧可能にする)予定です。可能ならば事前質問の受け付けなど、討論の活発化に資する工夫をいたします。

——プログラム—— (司会:有江大介)

14:00-14:10 報告者紹介と本日のスケジュール確認 有江大介(研究代表者)

14:10-15:10 報告: 中島渉氏(ゲスト: 明治大学商学部教授)

「国教会牧師としてのジョナサン・スウィフトーその宗教的言説を眺める」

15:10-16:00 質問とディスカッション (研究会はここで終了)

16:00-16:10 休憩

16:10-16:30 バトラー研究会事務協議 (大久保正健事務局長: モスナー『バトラー主教と理性の時代』
翻訳の現況、および出版社との交渉の報告等)